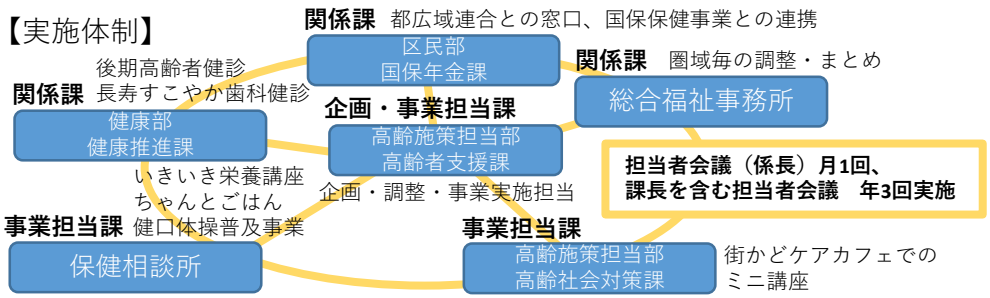
東京都練馬区

○　一体的実施開始初年度であるにもかかわらず、既存の地域支援事業の取り組みを応用し、多彩なポピュレーションアプローチを展開している。
○　高齢部門に専管部署を設置し、関係部署との学習会・担当者会議を定期開催することで、庁内および地域包括支援センターとの連携を構築している。
○　「健康上の課題が多い方」「機能低下のおそれがある方」「元気な方」の段階ごとに新規・既存の事業を整理し、戦略的に事業を実施している。

【概況】　令和３年４月１日時点

人　　口	740,417人
高　齢　化　率	21.8%
後期被保険者数	83,732人
日常生活圏域数	4圏域

【実施体制】



【人員体制】
高齢者支援課高齢者健康支援係
企画調整を行う保健師　１名（常勤）
高齢者保健指導専門員　４名（会計年度職員）
（内訳）　保健師　１名
管理栄養士　２名
歯科衛生士　１名
事務職　１名（常勤）
地域包括支援センター２５カ所（委託）
訪問支援員（社会福祉士等）各２名、計５０名

【取組経緯】
○令和元年度に、令和３年度の事業開始に向けて、国保年金課が事務局となり、関係部署で集まって学習会を月に1度のペースで開催し、検討を開始した。部ごとにリーダーを選出し、声を掛け合いながら、お互いの実施事業の内容を把握することから始めた。
○今までは、健康等に関心のある高齢者が事業参加していたが、これからはKDBシステムを活用することで、健康問題に課題のある高齢者が抽出でき、事業参加を促すことができることを確認した。
○その後、令和２年１１月に、地域包括支援センターを所管する高齢者支援課に事務局を移した。

【企画・調整等】

○KDBの活用
「医療費分析（２）大、中、細小分類（令和元年度）」帳票より、地域の高齢者の健康課題として、
・骨折、慢性腎臓病、関節疾患、糖尿病の医療費に占める割合が高い
・糖尿病があると重症化リスクが高まる疾病が医療費の５割以上を占めている
という傾向が見られ、糖尿病や筋骨格系への対策が必要であることが判明した。
また健診結果では
・やせリスク者（BMI18.5未満）の有所見率が高い
という傾向があったため、
『糖尿病性腎症重症化予防』と『低栄養予防』合わせて『健康状態不明者対策』についても取り組むこととした。

【ハイリスクアプローチ】

○糖尿病性腎症重症化予防
・HbA1c、生活習慣病レセプトおよび服薬履歴等（前年度）により対象者を抽出する。
・生活習慣が改善しているかを質問票により確認、医療レセプトで受診の有無を確認、健診結果の数値が維持・改善しているか確認する。
○低栄養防止
・BMI、血清アルブミン、低栄養関連レセプトあり（前年度）等により対象者を抽出する。
・聞き取りにより医療受診状況、生活状況を把握する。
・健診結果からBMI、アルブミン数値が維持・改善しているかを確認する。
○健康状態不明者対策
・健診未受診かつ医療レセプトなしの者（前年度）、区実施のひとり暮らし高齢者等実態調査により訪問対象者を選定し、**高齢者保健指導専門員１名＋各地域包括支援センターの訪問支援員１名**で連携して訪問する。
・健診を受診したかを、KDBシステムにより確認する。

対象者については、アセスメント結果に応じて医療機関受診、栄養指導、健診受診、通いの場、その他必要なサービスにつなげる。

【ポピュレーションアプローチ】

○通いの場等への積極的関与
・街かどケアカフェ（26か所）、はつらつセンター（４か所）、敬老館（11か所）等を対象とする。

＊高齢者のためのちゃんとごはん と いきいき栄養講座
・フードモデル等の媒体を使用して講座を開催する。料理のデモンストレーションを実施し、低栄養予防の食事を体験する。

＊健口体操普及事業
・オーラルフレイル予防の知識と「ねりま　お口すっきり体操」を学び、「10日間チャレンジシート」を活用し、体操を習慣化させる。

＊街かどケアカフェでの介護予防・フレイル予防支援
・歯科衛生士、管理栄養士による出張のミニ講座を行う。歯科健診や健康診断の結果などを活用し、個別の相談にも応じる。

ちゃんとごはん と いきいき栄養講座

お口すっきり体操10日間チャレンジシート

○課題、今後の展望

効果的な通知方法：本来ポピュレーションアプローチの事業にも参加して欲しいハイリスクの対象者が参加につながりにくく、その意識変容を図る必要がある。参加者募集にあたっても、効果的な通知方法を検討する必要がある。
健診受診の勧奨：訪問した健康状態不明者２３０名のうち、２０数名が健診受診に至っているが、健診を受けないことが習慣化してしまっている者の対策が必要である。
担い手の育成：ポピュレーションアプローチにおいて、被保険者自らが支援者となるためのフレイルサポーター育成プログラムを検討する。
ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチの連動：ハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチが連動し、事業効果を高める取組を検討していく。